

令和6年10月3日

令和6年度地方教育行政功労者表彰について

文部科学省では、毎年度、地方教育行政においてその功労が特に顕著な教育委員会の委員、教育長について、その功に報いるとともに地方教育行政の発展に資するため、文部科学大臣表彰を行っています。このたび、下記のとおり令和6年度の本県の被表彰者が決定しましたのでお知らせします。

記

1 対象

都道府県・指定都市教育委員会の教育長及び委員、市町村教育委員会の教育長及び委員として、地方教育行政において特に顕著な功績のあった者に対して行う。

2 被表彰者

令和6年度 福島県関係者 5名

【市町村教育委員会関係】

元桑折町教育委員会教育長	あいた ともやす 会田 智康	令和6年3月31日退任
天栄村教育委員会委員	しみず えいいち 清水 栄一	現職
西郷村教育委員会委員	かつまた ちかこ 勝又千賀子	現職
猪苗代町教育委員会教育長	うな やまだあき 宇南山忠明	現職
元飯舘村教育委員会委員	かんの 菅野 クニ	令和5年10月5日退任

(注) 記載内容は、令和6年8月1日現在

3 表彰式

日時：令和6年10月10日（木）12：20～14：05

会場：文部科学省講堂

4 主な功績

別紙のとおり

(別紙)

令和6年度地方教育行政功労者主な功績一覧

番	氏名	主な功績
1	会田 智康	<p>○平成27年4月1日に桑折町教育委員会教育長に就任し、令和6年3月31日に退任した。</p> <p>○児童生徒に対する町独自で無料の「桑折学習塾」開催や児童に対する読み・書き・計算の徹底反復「陰山メソッド」の実施、幼児から生徒及び保護者を対象とした「家読運動コンクール」を実施するなど、児童生徒の基礎学力と学力向上、読書を通じた家族の絆を深めるとともに読書意欲の向上を図った。</p> <p>○中学校部活動への指導員配置、社会体育行事として桑折町小学生陸上競技大会を移行、部活動地域移行関係者協議会を設立し、部活動地域移行に向け協議を進めるなど、教職員の働き方改革の一役を担った。</p> <p>○地域の活性化や豊かなまちづくりを進めるとともに、令和5年12月には新たな「桑折町生涯学習推進基本計画（第三次）」策定を行うなど、歴史文化・生涯学習事業推進のため尽力した。</p>
2	清水 栄一	<p>○平成23年11月25日に天栄村教育委員会委員に就任、平成26年10月1日から平成28年9月30日まで委員長を務めた。</p> <p>○平成23年度より、中学校2年生を対象とした「立志式」を、10歳児を対象に「2分の1成人式」を実施し、幼児・青年期からの社会性の育成に努めた。</p> <p>○平成28年度から個別英会話レッスンを開始し、外国語指導助手派遣委託によるALT2名配置と合わせ「英語の村てんえい」という村の特徴的な教育施策の円滑な始動を後押しした。</p> <p>○令和4年度より天栄中学校の総合的な学習の時間において、「天栄ならではの教育」として「ふるさと・夢プロジェクト」を展開している。地域全体で子どもたちを支えていく体制が整っているという村の強みを生かし、生徒一人ひとりが「村をもっと深く知ろう」という意識を持つことでの、ふるさと天栄に生きる一員としての探求を後押しし、プロジェクトの中で外部講師としても活躍した。</p>
3	勝又千賀子	<p>○平成22年10月18日に西郷村教育委員会委員に就任、平成29年12月22日から西郷村教育委員会教育長職務代理者を務めている。</p> <p>○西郷村の学校教育の充実・伸展及び生涯学習、社会教育、芸術文化等、教育行政全般に渡り尽力し、特に、平成30年5月に制定した「西郷村教育大綱」や令和5年7月に策定した「西郷村第二次教育振興基本計画」については、保護者としての経験や中美展で佳作を受けるなど自身の芸術に対する深い造詣から教育委員会における意見調整・集約の中心的役割を果たした。</p> <p>○民生児童委員協議会については、主任児童委員を5期14年務め、地域との架け橋となり西郷村の児童福祉の進展に功績を果たした。その他、西郷村の各種委員等を務めるなど、西郷村の一般行政の進展に功績を果たした。</p>
4	宇南山忠明	<p>○平成29年4月1日より猪苗代町教育委員会教育長を務めている。</p> <p>○町の教育振興のために「野口英世博士の遺訓と歴史の教訓を生かし、地域の文</p>

		<p>化、特性に学び、未来を拓く猪苗代の子ども、人材を育成を目指す」を基本目標として、5つの方針と17の行動計画を策定し、多くの成果を上げた。</p> <p>○児童生徒の安心・安全な学習環境の整備と、均衡のとれた学習効果を確保するため、猪苗代町教育施設の適正配置事業に取り組み、町内に3校あった中学校を1校に統合し、令和4年4月に開校するとともに、町内に6校あった小学校を2校に統合・再編し、令和6年4月に開校した。</p> <p>○平成30年4月から、町独自に特別支援アドバイザーを雇用し、園・学校・家庭・保健福祉課・教育委員会が一体となった体制を構築することにより、障害や困り感のある幼児・児童・生徒に対する切り目のない相談・支援の充実を図り、大きな成果をあげた。</p>
5	菅野 クニ	<p>○平成23年10月6日から令和5年10月5日までの永きにわたり、飯舘村教育委員会委員を務めた。</p> <p>○就任当時から東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により全村避難を強いられており、いち早く村に隣接する川俣町で幼小中学校を再開する一方、川俣町での仮設小学校建設及び再開、福島市飯野地区での仮設幼稚園及び仮設中学校の建設再開に尽力し、避難中であっても充実した教育環境の提供に努めた。</p> <p>○平成28年から避難中学校の村内再開について方向を示す「学校等再開検討委員会」が設置され、委員として特に保健師として保健分野での経験を活かし、放射線への不安に対する払拭や正しい放射線教育を支援した。</p> <p>○令和2年度から開始された義務教育学校の運営に当たり、特色を生かした教育を目指し、義務教育学校のメリットを生かした教育を進めることを支援した。また、飯舘村ならではの教育「いいたて学」の推奨や伝統文化の継承などを継続して教育の中に組み込むことを提唱し、語り部の重要性を説いてきた。</p>